

「第12回日本運動免疫学研究会」のご案内（第1報）

平成29年度日本運動免疫学研究会を下記の日程で開催致します。奮ってご参加頂けますよう、宜しくお申し込み申し上げます。なお、プログラムの詳細につきましては第2報にてご案内させて頂く予定です。

日 時：平成29年9月15日(金, 本大会前日)
 時 間 (予定)：16:00~18:00 (15:30受付開始)
 会 場：調整中 (本大会会場を予定)
 参加費：1,000円 (事務連絡費, 機器借用費など)

懇親会：研究会終了後、会場周辺施設での懇親会を予定しております。詳細につきましては、第2報にてご案内させて頂きます。

世話人・問い合わせ先：

矢野博己 (川崎医療福祉大学)
 椎葉大輔 (倉敷芸術科学大学)
 〒712-8505 岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地
 TEL/FAX：086-440-1135
 e-mail：dshiva@sci.kusa.ac.jp (椎葉)

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団「第29回助成研究発表会」および「ソルト・サイエンス・シンポジウム2017」の開催について

○第29回助成研究発表会

- ・開催期日 平成29年7月19日(水)
- ・開催場所 都市センターホテル
(東京都千代田区平河町)
- ・参加料は無料。参加希望者は財団にファックス・メール等で事前に申込。
- ・詳細については、財団のウェブサイトをご覧ください。

○ソルト・サイエンス シンポジウム2017

1. 開催概要
 - 1) 開催趣旨
塩に関する学術、その他の情報普及と啓発
 - 2) 開催日時
平成29年10月19日(木) 13:00~16:40
 - 3) 開催場所
品川区立総合区民会館 (きゅりあん)
1階小ホール
 - 4) 参加料 無 料
参加の申込みはファックスまたはメール等で事前に申込

2. テーマと講演内容

- 1) テー マ
海と塩の魅力~その多彩な用途と働き~
- 2) 講演内容
 - (1) チーズ造りと塩類のマリアージュ
(13:10~14:10)
講演者：齋藤忠夫 東北大学大学院 教授
 - (2) 次世代に向けた海洋資源からのレアメタル回収 (14:10~15:10)
講演者：松本道明 同志社大学 教授
 - (3) 健康な体に欠かせないマグネシウムの働き
(15:30~16:30)
講演者：五十里 彰 岐阜薬科大学 教授

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
 (http://www.saltscience.or.jp)
 Fax: 03-3497-5712 Tel: 03-3497-5711
 E-mail: saltscience@saltscience.or.jp

第25回日本発汗学会総会のご案内

1. 会 頭：中里良彦（埼玉医科大学神経内科）
2. 会 期：平成29年7月28日(金)～29日(土)
3. 会 場：埼玉医科大学川越クリニック
(〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町21-7)
4. プログラム：
 - 1) 会頭講演「無汗症」
中里良彦（埼玉医科大学神経内科）
 - 2) 招請講演1「AIGAと減汗性コリン性蕁麻疹」
戸倉新樹（浜松医科大学皮膚科）
 - 3) 招請講演2「シェーグレン症候群と抗アクアポリン5自己抗体～漢方薬による治療の可能性」
磯濱洋一郎（東京理科大学）
 - 4) 特別講演「馬の発汗学－発汗現象と哺乳類の進化－」
田村直俊（埼玉医科大学短期大学）
 - 5) シンポジウム「体温調節機構と発汗：末梢から中枢機構の総合的解明のために」
演者：富永真琴（岡崎統合バイオサイエンスセンター細胞生理研究部門）
中村和弘（名古屋大学大学院医学系研究科統合生理学）
犬飼洋子（愛知医科大学生理学）
 - 6) 教育セミナー「先天性無汗症」
 1. 先天性無痛無汗症
犬童康弘（熊本大学小児科）
 2. 無汗性外胚葉形成不全
藤本智子（都立大塚病院皮膚科）
 - 7) ランチョンセミナー「Fabry病の無汗症」
室田浩之（大阪大学医学部皮膚科）
 - 8) 一般演題
 - 9) 市民公開講座「なぜ汗をかくのか、もし汗をかけなくなったら・・・(仮)」
中里良彦（埼玉医科大学神経内科）
田村直俊（埼玉医科大学短期大学）
- 10) 機器展示
5. 演題募集：一般演題を募集いたします。
演題登録先：sweat25@saitama-med.ac.jp
「演題名」「所属」「著者名（共著者を含む）」「連絡先（住所・電話番号・FAX・メールアドレス）」をご記入のうえ、「抄録本文（テキストまたはMS-Word）800字以内」を添付ファイルで上記アドレスにお送り下さい。演題申し込みは、メールでお願いします。また、採否等もメールでお知らせします。
なお、メールでの登録が困難な場合は総会事務局までご連絡下さい。
6. 総会事務局：
〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
埼玉医科大学 神経内科学内
TEL：049-276-1208 FAX：049-295-8055
E-mail：sweat25@saitama-med.ac.jp
7. 演題締め切り：平成29年5月15日(月)
8. 応募資格：
演者並びに共同演者は日本発汗学会の会員に限りません。非会員の方は下記の学会事務局まで連絡のうえ、入会の申し込みをお願いいたします。
9. 日本発汗学会事務局：
〒683-8503 鳥取県米子市西町86
鳥取大学医学部適応生理学分野内
日本発汗学会事務局
TEL：0859-38-6043 FAX：0859-38-6043
E-mail：hakkan-gakkai@med.tottori-u.ac.jp

日本医学会だより

JAMS News

2017年5月 No.57
日本医学会

◆日本医学会協議会

日本医学会会長・副会長と日本医師会（日本医学会担当）役員で毎月開催している役員会議である。

◆第84回日本医学会定例評議員会

平成29年2月17日に開催した。平成28年度年次報告、平成29年度事業計画の報告の他、第30回日本医学会総会2019中部の開催準備状況の報告等の議題があった。平成28年度新規加盟学会は、日本老年精神医学会、日本静脈経腸栄養学会の2学会が承認され、128学会となった。

◆日本医学会加盟検討委員会

平成28年度第1回日本医学会加盟検討委員会を、平成28年11月22日に開催した。加盟申請の27学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成29年1月13日の日本医学会協議会で高久会長に報告した。

◆日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第15回委員会を平成29年3月3日に開催した。「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会からの報告、医学における科学的根拠について、(一社)日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構についての報告が行われた。

◆日本医学会利益相反委員会

第15回日本医学会利益相反委員会を、平成

29年3月24日に開催した。①「日本医学会COI管理ガイドライン」案、②「日本医学会診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」案、③医学系研究に係る産学連携の在り方に関するアンケート調査結果、④日本医学会128分科会における医学研究に係る利益相反(COI)対応の現状アンケート案、⑤日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会との連携活動について、⑥日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等について意見交換を行った。

◆日本医学会医学用語管理委員会

平成28年12月5日に平成28年度分科会用語委員会を開催した。主な議題は疾病、傷害及び死因分類の改正とWHOにおける国際統計分類の検討状況、第149回日本医学会シンポジウム「医学用語を考える—医療者・市民双方の視点から—」開催報告、外保連の手術術式名について日本眼科学会 眼科用語集(第6版)の改訂をめぐる問題、日本医学会医学用語辞典Web版の凡例について、日本小児科学会より「奇形」を含む医学用語の置き換えの提案、指定難病名を含む行政用語について、である。3月29日に第17回委員会を開催した。

◆第22回日本医学会公開フォーラム

「生活習慣とがん—がんを予防し健康寿命を延ばそう!—」をテーマに、平成29年6月10日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する(組織委員長:津金昌一郎・国立がん研究センター社会と健康研究センター

長)。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. 序論/津金昌一郎 (国立がん研究センター社会と健康研究センター長)、2. たばこ喫煙とがん/祖父江友孝 (大阪大学大学院医学系研究科教授・環境医学)、3. アルコール摂取とがん/松尾恵太郎 (愛知県がんセンター研究所遺伝子医療研究部長)、4. 食生活とがん/永田知里 (岐阜大学大学院医学系研究科教授・疫学・予防医学)、5. 身体活動、体型とがん/井上真奈美 (東京大学大学院医学系研究科健康と人間の安全保障 (AXA) 寄附講座特任教授)

◆第 151 回日本医学会シンポジウム

「医療における“賢明な選択(Choosing Wisely)”を目指して」をテーマに、6月1日(木)13:00～17:00 日本医師会館大講堂で開催予定。組織委員：山口直人、小泉俊三。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会 HP ご参照。

◆医学賞・医学研究奨励賞

平成 29 年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を日本医師会雑誌の 5 月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日(月)～7月3日(月)。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

◆日本医学会への加盟申請

平成 29 年度の日本医学会への新規加盟申請

は、5月15日(月)に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日(月)に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

◆移植関係学会合同委員会

平成 4 年 4 月に発足した本委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。

第 35 回委員会は、持ち回り開催とし、心臓移植実施施設の認定(名古屋大学医学部附属病院：成人(11歳以上)心臓移植実施施設)を行った。

◆研究倫理教育研修会

日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会主催の第 3 回研究倫理教育研修会を、「研究倫理教育の在り方と共通化」をテーマに、平成 29 年 5 月 25 日(木)、13:00～16:00、日本医学会分科会の倫理委員会、編集委員会、利益相反委員会の代表者またはそれに準ずる者(各分科会 3 名以内)を対象として、日本医師会館大講堂にて開催する。

当日は、「新たな専門医制度における医学・医療倫理について」(吉村博邦一般社団法人日本専門医機構理事長)、「統計学からみた論文不正」(新谷 歩大阪市立大学大学院医学研究科教授)、「著作権の問題と教育方法について」(北村聖国際医療福祉大学医学部長・教授)、「産学連携による医学系研究と COI 管理」(曾根三郎徳島大学名誉教授/徳島市病院事業管理者)、「提言、そして教材作成を通じた支援」(市川家國信州大学特任教授)の講演がそれぞれ行われる予定。

編 集 後 記

今年は桜の開花が遅かったため、満開に咲き誇った桜に彩られたキャンパスに新入生を迎えることができました。毎年のことながら、初々しく、希望に満ち溢れた彼らの真っ直ぐな表情を見ると、背筋をピンと伸ばして「再起動」ボタンを押し、覚悟？を決めて新学期を迎える心持ちになります。

「体力科学」第66巻3号をお届けいたします。本号には総説4編と教育講座1編が掲載されております。まず総説の一編目は、呼吸筋の筋力や呼吸効率がスポーツパフォーマンスを規定する主要因の一つとなることを理論的に解説し、呼吸筋をターゲットにしたトレーニングの有用性を明解に指摘しています。二編目の総説は、体温調節システムにおいて極めて重要な役割を担う皮膚血管拡張機能に焦点を当てたもので、運動トレーニングによる適応応答に関して詳細に論及しています。三編目は、高齢者の総人口に占める割合が27.3%（総務省2016年9月18日）と過去最高を記録する我が国が対峙すべき緊要課題、加齢に伴う筋肉の量的・質的低下サルコペニアに内臓脂肪肥満が合併した病態のサルコペニア肥満を取り上げたもので、心疾患や全死亡リスクとの関連性や評価方法について検討を加えています。そして四編目は、自然環境を活かした健康づくりの一手法である気候性地形療法として注目されているクオアルト健康ウォーキングについて、実施に伴う生理・生化学的応答が丁寧に解説されています。また教育講座は、身近な健康づくりのテーマとして取り上げられることが多い、「減量しながら筋肉量を増やして基礎代謝を増大させることは可能か？」といった問いに向き合い、原理的にその可能性について

指摘しています。すべてが興味深い内容で、競技力向上から健康増進を目指す論考に至るものまであり、「体力科学」の守備範囲の広さを示唆する一冊となっています。是非精読をお勧めいたします。

巷間では2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた動きがすでに始まっています。その一つに、各国の事前トレーニングキャンプ地誘致運動があります。過日、二十数年来の親交のあるフランス柔道連盟ディレクターが、候補地である私の住む自治体を視察に訪れました。練習場、選手やサポートスタッフの宿泊や輸送など細部にわたる意見交換の中で印象的だったのは、選手団と地域住民との交流イベントの開催を強く希望する姿勢でした。勝敗に拘るのは当然だと思いますが、それと並行してスポーツを通じた文化・習慣や言葉の違いを超えたグローバルな人的交流を企図しているのです。このような動きは正に、昨今のオリンピック・パラリンピックで強調される無形のレガシー創出の考えに通じると感じました。

「体力科学」の投稿論文をはじめ体力医学会の全ての事業は、それ自体が2020年に向けて策定されたアクション&レガシープランの柱の一つ「スポーツ・健康（スポーツの力でみんなが輝く社会へ）」を推進する理論的基盤を形成するものであると信じます。東京オリンピック・パラリンピックを契機に、これまで以上に体力医学会会員が国内外で活躍されることを期待したいと思います。

小山勝弘

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.66, No.3

体 力 科 学 第 66 巻 第 3 号

平成 29 年 5 月 25 日 印 刷

平成 29 年 6 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

編 集 事 務 局

印 刷 所

田 中 喜 代 次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012
E-mail：jpsfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL：0235-22-3120 FAX：0235-22-3120
E-mail：hj-tairyoku@turuin.co.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社